



あくんちやらんど

校訓『負けじ魂』

キャッチフレーズ「祖先の知恵を受け継ぐ大城小」

HP アドレス <http://www.erabu.net/ohjirosho120/> 令和5年12月20日発行 No. 9

大城小学校創立125周年おめでとう！

校長 野口 浩二

今年も12月1日（金）に来賓の副町長 川畑裕一様、教育長 竹下安秀様をはじめ、地域・保護者の皆様に御列席いただき、大城小学校創立125周年記念式典を皆様とお祝いすることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

校訓「負けじ魂」の由来やその精神について子供たちも学んだり、考えたりするとても大切な記念日です。大城小学校39名の児童はこの日を迎えたことで、またその思いをしっかりと受け止め大城小学校で学んでいることに自信と誇りをもって生活していこうとしています。先人たちの思いが受け継がれ、先生方に理解された大城小学校の「負けじ魂」は何ごとにも負けない強い気持ちで学び育っていこうとする子供たちを育てていってくれています。これが毎年、記念式典をやる効果なのかもしれません。多くの先輩たちが築いてこられた大城小学校の歴史と伝統を子供たちは、誇りに思うと共に素晴らしい伝統を受け継ぎ、発展させていきたいと考えていくようになるのかもしれません。

また、黒糖づくりや三味線、踊りなど昔ながらの体験を通して地域や学校に誇りをもてる子供たちに育っていくのではないのでしょうか。大城小学校ならではの特色ある教育活動をとおして先人の思いを受け継ぎ、大切な学びとなっていると思います。

今年度に入りコロナウイルス感染症のため縮小されてきた学校行事や様々な教育活動が以前の状態に戻りつつある中、運動会やもちつきなども実施することができました。地域の皆様が学校行事に参加していただき、子供たちと交流を深めることは大変うれしいことです。今後も保護者、地域の皆様に支えていただけるように間口を広げて、皆様が訪問しやすい大城小学校であるように努めていきたいと思っています。

今年度は根折高倉保存会の山下幸秀様、PTA会長の島田浩樹様を中心となり、10年振りにサタ小屋の葺き替え作業を子供たち、保護者、地域の方々、職員で行いました。3学期は新しくなったサタ小屋でおいしい黒糖を作ることができるでしょう。今後も地域と一体となり教育活動を大切に、子供たちを育てていけるように努めてまいります。



創立125周年記念式典

<児童代表の言葉>

6年 市来 夏那

今年、大城小学校は創立125周年を迎えました。今日のこのよき日に大城小学校の6年生として、また、大城小学校の代表として、今日の日をお祝いできることをうれしく思います。

大城小学校は、現在まで多くの先輩方が学び、たくさんの思い出や歴史と共に125年を歩んできました。この長い年月には多くの努力や伝統、思いが引き継がれてきています。大城小学校では、郷土の文化や昔からの伝統を学び、体験することができます。今もこのように学び、体験することができるのも、伝統を絶やさずに受け継いできた先輩方や私たちを支え教えてくださる地域の方々、保護者の皆様のおかげです。本当にありがとうございます。

私たちの大城小学校は、思いやりがとてもあり、毎日が温かい気持ちでいっぱいです。朝の体力づくりでぶつかったら、「ごめんね。」と素直に言えたり、すぐに「大丈夫？」と声をかけてくれたりする人がたくさんいて、とても優しいです。

また、大城小学校では、黒糖づくりや米づくりなどの文化が残っています。黒糖や米づくりでは、毎回、手伝ってくださる地域の方々、もりあげ隊の皆さんが来てくださり、人数が少なくても関係ありません。今年は10年ぶりにサタ小屋の屋根も新しくなり、黒糖づくりも楽しみです。

そして、一輪車にも取り組んでいます。1年生もすごい早さで上達します。他の学年も追いつかれまいとがんばっています。毎年、もりあげ隊の方々が一輪車をプレゼントしていただき、とてもありがたいです。本当にありがとうございます。

このような温かい大城小の友達、地域の方々。私はこれからも素敵な大城小学校であってほしいと思います。そのために、私たちはもちろんのこと、私たちに続く下級生たちにも、大城小学校を大切に思う気持ちや自分を支えてくれる人たちへの感謝の気持ちを忘れないということを伝えていきたいです。

私たちは、あと4ヶ月で卒業します。思いやりのあふれているきずなの深い学校を離れるのはさみしいです。しかし、思いやりの心を忘れずに、これまでの先輩方が築き上げてこられた「負けじ魂」の精神や多くの伝統や歴史に恥じることをないように、残りの小学校生活を送りたいと思います。



【6年 市来 夏那さん】



【創立記念式典の様子】

【島ムニでの自己紹介】